

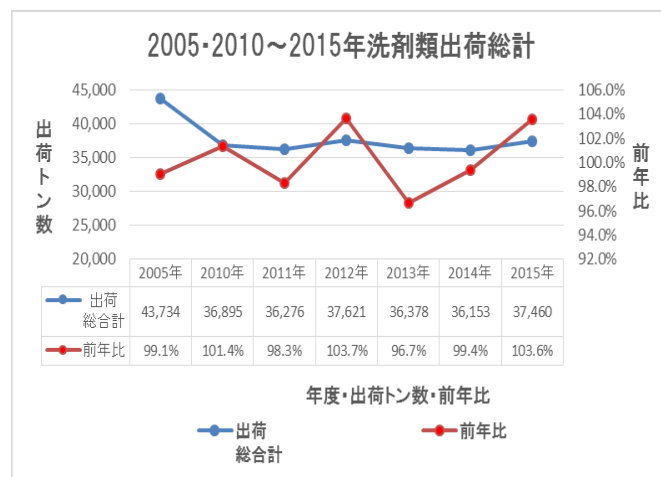
## 洗剤等の出荷実績概況

2015年(平成27年度)1月～12月

(出荷単位:t・%:前年同期比)

2015年度(1～12月)日本クリーニング用洗剤同業会(以下当同業会という。)に加盟する13社の出荷実績は37,460トンとなり前年比で1,307トン増の103.6%でありました。2年連続の前年割れに歯止めが掛かり、当同業会としても明るい状況ではありますが、ホームクリーニング分野は市場縮小傾向が継続しており、分野課題も存在しております。右の(表・グラフ-1)は2005年と2010年から2015年迄の洗剤類出荷総計です。

当同業会の顧客は、①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ(リネンサプライ・病院寝具・ダスコン・ダイパー4団体)③おしぼり業者④施設ランドリーであり、洗剤メーカーの立場から顧客概況の状況を含めご報告致します。



(表・グラフ-1)

### (全体コメント)

当同業会の顧客をマーケットセグメントから出荷概況を1. ホームクリーニングと2. テキスタイルリネンに分類し報告いたします。更に、タイプ別出荷概況を報告いたします。

### 1. (ホームクリーニング市場)

ホームクリーニングにおいては、2015年度1-12月度は総務省統計局『家計調査報告』洗濯代によると全国・(二人以上の世帯)のクリーニング代支出額は、6,600円と前年比564円減・92.1%となりました。2012年から2015年の月別は(グラフ-1)通りです。

このホームクリーニング市場の縮小傾向は、繊維製品の素材変化に伴う家庭洗濯に対応した衣類の広がりに加え、昨年の消費税増税後に家計支出のクリーニング代節約が要因であると推察いたします。

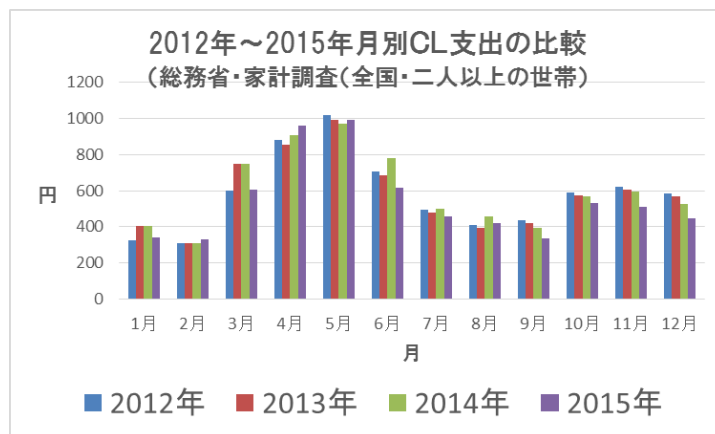
更に、当同業会の販売先であるホームクリーニングを主とする卸売業者の会社清算・廃業への傾向は継続し当同業会のパートナー減少は深刻です。

右(グラフ-1)から、春の需要期2014年と2015年を比較すると15年はスタートが立ち遅れ、4から5月に前年を上回るも6月以降は7ヶ月連続の前年割れとなりました。

2012年から4年間を月別に評価すると、全体的に減少傾向は言うまでもなく、特に秋の衣替えシーズンの落ち込みが起り、年末まで継続した結果、2015年のクリーニング代支出額の減少に大きく影響したと推察致します。

繊維製品を取り巻く環境は大きく変化し、経済産業省は商業洗濯に係る衣類の『新しい取扱い表示記号』の制定により、消費者庁は日本工業規格(JIS L 0001)と国際規格(ISO 3758)の表示記号の整合性に対して、国際表示(ISO 3758)の表示記号と同じ記号を用いて改正し、今年12月1日から施行されます。

特に、アパレルメーカー等の動向によってはウエットクリーニングの需要拡大とドライの需要縮小の可能性が起ると推察しております。今後もクリーニング代支出額に大きく影響を与えるウエットクリーニング用洗剤とドライソープの出荷実態を当同業会としても把握する必要があると考えております。



出典:総務省統計局『家計調査報告』 (グラフ-1)

## 2. (テキスタイルリネンサプライ市場)

テキスタイルリネンサプライ市場は、成熟市場となっておりますが、ホテルは増加傾向・病院寝具は安定市場である一方、ダスコン・ダイアパーの市場規模は微減傾向が継続していると推察しております。

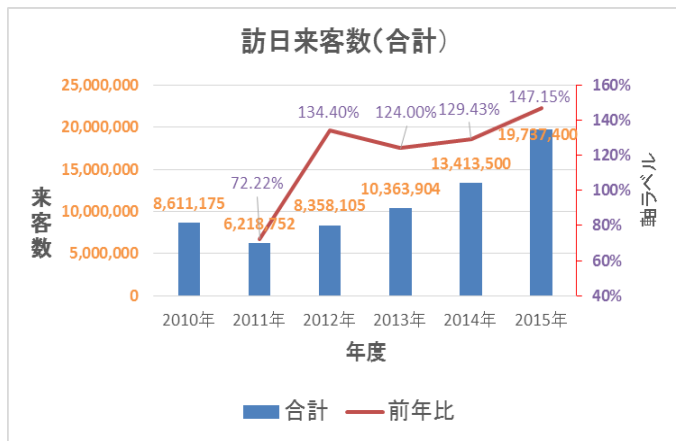
### 2. -1) (ホテル市場)

ホテルリネン市場は、旅館数の減少や高級ホテルの稼働の伸び悩みがあったものの、都市圏を中心とした宿泊特化型ホテルの施設数が増加傾向にあり、市場規模としては増加傾向にあると推察します。

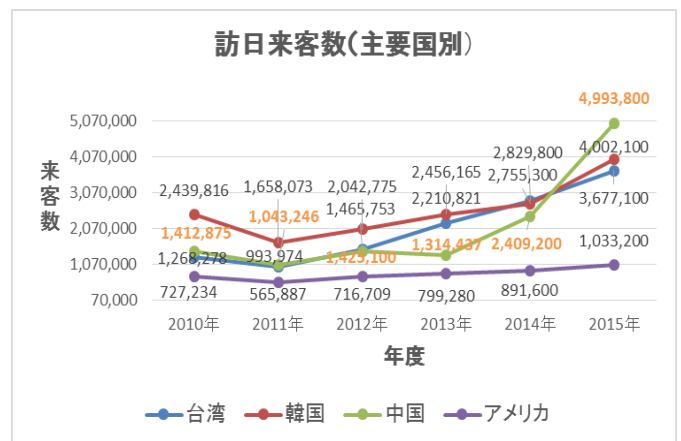
また、昨年から円安進行・2011年の震災の影響も解消しつつあり、昨年は海外訪日来客数および国内旅行者数の増加により、都市圏を中心にホテル稼働率が増加傾向でありました。特に、海外訪日来客数は台湾・韓国・中国という近隣国の訪日来客数が増加継続、ホテル稼働率増加に大きく影響を与えたと推察いたします。

訪日来客数(総数)と主要国の傾向は 2011年の震災後、下の(グラフ-2・3)の通り大きくV字回復しており、2015年は前年から632.4万人増の1,973.7万人で、特に中国からの来客数増加が特徴的な年でありました。今後も2020年東京開催オリンピック・パラリンピックに向かい増加傾向が継続すると推察いたします。

当同業会としては、ホテル宿泊者に対し、洗浄技術を生かしたリネンの『白さ』と『衛生』を両輪で訴え、顧客とともに『リネン品の日本品質』が世界のトップレベルであることを示していくことに取り組んでまいります。



(グラフ-2)



(グラフ-3)

\* 出典: 日本政府観光局(JNTO)訪日来客数

### 2. -2) 病院リネン関連

病院リネン関連(病院寝具・ダイアパー「貸しオムツ」)市場に大きく関連する病床数は、170万床前後と推察いたします。一般病床89万床前後・療養病床33万床超と高齢化社会の背景の中で安定的な市場と推察いたします。この分野は、今後も継続的な高齢化社会に向かい、特に療養病床数不足が課題であり、政府等の支援拡大が本格化すれば成長が期待されると推察いたします。特に、この分野は医療事業機関等の衛生に関する関心と監視が高まっており、当同業会としても今後の対応に『洗浄剤』と『衛生関連剤』の提案・提供が必要となってきております。

ダイアパーは貸しオムツから老人用紙おむつへ代替が継続しております。しかしながら、循環型社会への対応策としてエコ意識が高まり紙おむつとの品質優位性を実現できれば、代替の回避は可能であると期待しております。

### 2. -3) ダストコントロール

ダストコントロール市場はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める市場で、景気停滞による需要の減少傾向が継続し、リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品の他流通からの購入へ移行、更には他のリネン分野からの参入などにより、価格競争が激化し厳しい市場環境にあると推察いたします。

特に、この市場は、マット・モップの使用上の特徴から超ハード汚れを洗浄する技術が求められており、更には多種多様な素材変化に対応していくことも近年重要になりつつあります。当同業会としては、高度な洗浄技術を提供し、課題解決に向けた取組を推進していく考えでおります。

ホームクリーニング・テキスタイルリネンに共通する労働力の確保が課題となっております。この課題解決策は人的作業を設備投資による作業人員の削減が急務であり、機械メーカーの技術発展に期待しております。

### 3. 2015 年度総計・タイプ別出荷状況報告

#### 3. -1)全項目別総計出荷報告(2005 年・2010～2015 年)

年度	ドライ用						ランドリー用										再販用 合成洗剤	前年比	出荷 総合計	前年比			
	パーク系	エタン系	フロン系	石油系	ドライ 合計	前年比	石鹼	前年比	合成 洗剤	液体 洗剤	合成(粉) 液体合計	前年比	ソフナー	粉末 漂白剤	合成 漂白剤	仕上剤 合計					前年比	直接剤 合計	前年比
2005年	632	0	34	1,775	2,441	97.1%	709	89.9%	18,804	8,555	27,359	98.8%	5,830	1,831	1,782	9,443	102.4%	39,952	99.3%	3,782	97.0%	43,734	99.1%
2010年	309	0	53	1,233	1,595	97.2%	495	93.2%	17,394	7,563	24,957	103.4%	5,118	1,574	1,325	8,017	101.3%	35,064	102.5%	1,831	85.1%	36,895	101.4%
2011年	275	0	52	1,155	1,482	92.9%	417	84.2%	17,538	7,412	24,950	100.0%	4,955	1,512	1,221	7,688	95.9%	34,537	98.5%	1,739	95.0%	36,276	98.3%
2012年	253	0	47	1,112	1,412	95.3%	466	111.8%	18,329	7,833	26,162	104.9%	5,002	1,597	1,231	7,830	101.8%	35,870	103.9%	1,751	100.7%	37,621	103.7%
2013年	216	0	51	1,087	1,354	95.9%	392	84.1%	17,660	7,841	25,501	97.5%	4,872	1,522	1,123	7,517	96.0%	34,764	96.9%	1,614	92.2%	36,378	96.7%
2014年	186	0	43	1,044	1,273	94.0%	370	94.4%	17,634	7,988	25,622	100.5%	4,877	1,500	1,045	7,422	98.7%	34,687	99.8%	1,466	90.8%	36,153	99.4%
2015年	167	0	51	1,060	1,278	100.4%	359	97.0%	18,188	8,678	26,866	104.9%	4,983	1,549	1,082	7,614	102.6%	36,117	104.1%	1,343	91.6%	37,460	103.6%

(表-1)

\*直接剤の合計は再販用合成洗剤を除く全項目の合計で表す。

2015 年度(1-12 月)当同業会に加盟する 13 社の総出荷実績は 37,460 トンとなり前年比で 1,307 トン増の 103.6%でありました。3 年ぶりの出荷増となりました。特に、ランドリー用合成洗剤はホテルリネンで訪日外客数の増加がホテル稼働率の上昇に影響を与え、出荷増となったと推察致します。タイプ別は上の(表-1)の通りです。  
(\*但し、15 年の液体洗剤増は会員 1 社で 15 年から出荷報告に加算した影響分も含んでおります。)

#### 3. -2)ドライ用洗剤

-2013 年・2014 年(上期・下期)・2015 年(上期・下期)出荷実績

項目 / 年度・前年比	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年 (年間)	前年比 (年間)	2015年 (上期)	前年比 (上期)	2015年 (下期)	前年比 (下期)	2015年 (年間)	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	216	101	85	186	86.1%	88	87.1%	79	92.9%	167	89.8%
ドライクリーニング用洗剤(フッ素系)	51	27	16	43	84.3%	28	103.7%	23	143.8%	51	118.6%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	1,087	578	466	1,044	96.0%	571	98.8%	489	104.9%	1,060	101.5%
ドライ合計	1,354	706	567	1,273	94.0%	687	97.3%	591	104.2%	1,278	100.4%

(表-2)

下の(表-3・グラフ-4)の通り、ドライ用洗剤は 2005 年から 1,163 トン減。前年からは 5 トン増の 100.4%となり、上の(表-2)の通り、上期の減を下期でカバーした結果、前年の出荷量を確保しましたが減量傾向は継続する可能性があるかと推察致します。

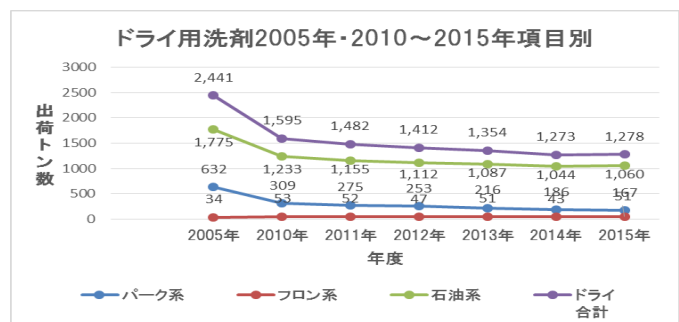
①. パーク系は、2005 年から 465 トン減で 26%まで減少し、減少傾向に歯止めが掛かからず、パーク系ドライ市場の未来は非常に暗い状況となっております。

②. 石油系は、2005 年から 715 トン減で 60%まで減少し、前年から 16 トン増の 102%となり前年出荷量を確保いたしました。石油系の減少傾向は今後も継続すると推察しており、建築基準法の安全対策に基づく対応策と前述に記載した衣類の『新しい取扱い表示記号』の制定が加わり、洗濯方法を表示記号に応じたウエットクリーニングへ移行する広がりがあると推察します。

③. フッ素系は、2005 年から 17 トン増の 150%へ上昇し、前年から 8 トン増の 119%となりました。出荷量は増加しましたが、ここ数年のトレンドは、横ばい傾向であり、今後の出荷状況確認が必要と考えております。

年度	ドライ用					
	パーク系	エタン系	フロン系	石油系	ドライ 合計	前年比
2005年	632	0	34	1,775	2,441	97.1%
2010年	309	0	53	1,233	1,595	97.2%
2011年	275	0	52	1,155	1,482	92.9%
2012年	253	0	47	1,112	1,412	95.3%
2013年	216	0	51	1,087	1,354	95.9%
2014年	186	0	43	1,044	1,273	94.0%
2015年	167	0	51	1,060	1,278	100.4%

(表-3)



(グラフ-4)



### 3. -3)ランドリー石鹼

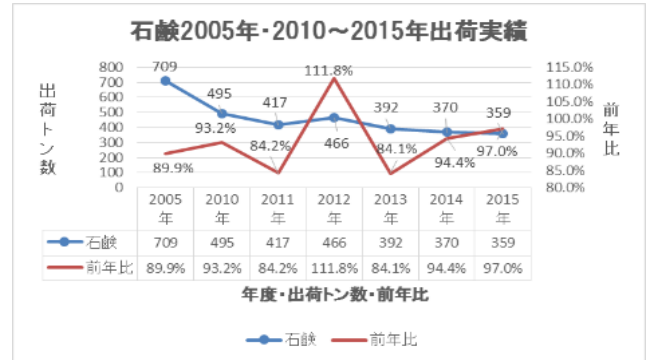
・2013年・2014年(上期・下期)・2015年(上期・下期)出荷実績

項目 / 年度・前年比	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年 (年間)	前年比 (年間)	2015年 (上期)	前年比 (上期)	2015年 (下期)	前年比 (下期)	2015年 (年間)	前年比
ランドリー石鹼	392	182	188	370	94.4%	184	101.1%	175	93.1%	359	97.0%

(表-4)

ランドリー石鹼の減少はランドリー用合成洗剤への移行が、この10年で急速に進んだ結果、出荷量は約51%まで減少しました。ランドリー石鹼の減少傾向は今後も継続すると予測しております。ただし、石鹼の特徴を再発掘し、洗濯現場に活かす事ができればトレンドに歯止めを掛けられる可能性は十分に残されていると考えております。

当同業会の課題として、出荷量の減少は製造コスト高になり、安定供給を果たす為には価格改定をお願いするケースもあると考えております。



(表・グラフ-2)

### 3. -4)ランドリー用合成洗剤

・2013年・2014年(上期・下期)・2015年(上期・下期)出荷実績

項目 / 年度・前年比	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年 (年間)	前年比 (年間)	2015年 (上期)	前年比 (上期)	2015年 (下期)	前年比 (下期)	2015年 (年間)	前年比
ランドリー用合成洗剤(粉末)	17,660	8,485	9,149	17,634	99.9%	8,734	102.9%	9,454	103.3%	18,188	103.1%
ランドリー用合成洗剤(液体)	7,841	3,840	4,148	7,988	101.9%	4,187	109.0%	4,491	108.3%	8,678	108.6%
ランドリー用合成洗剤 計	25,501	12,325	13,297	25,622	100.5%	12,921	104.8%	13,945	104.9%	26,866	104.9%

(表-5)

ランドリー用合成洗剤(粉体)は、下の(表グラフ-3(左))の通り、10年前の2005年から616トン減の97%、前年からは554トン増の103.1%と安定した分野になりつつあると推察しております。

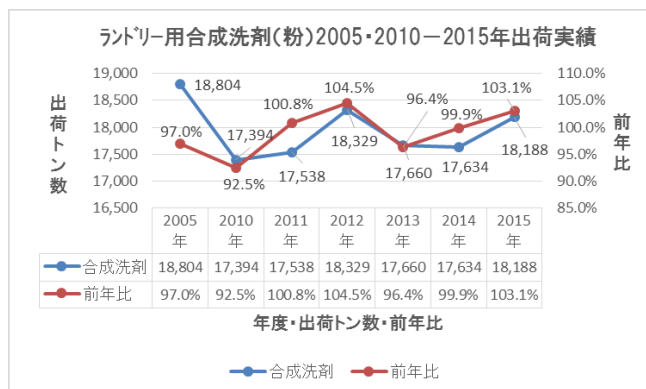
テキスタイルリネンサプライでは、ホテルの稼働率が高く、更に安定的であったことが、出荷量の前年増に寄与したと推察いたします。また、病院寝具・ダスコン市場も微減に留まり、全体として出荷量増となったと推察します。

ランドリー用合成洗剤(液体)は、下の(表・グラフ-4(右))の通り、10年前の2005年から123トン増の101%、前年からは690トン増の108.7%と安定した分野になりつつあると推察しております。

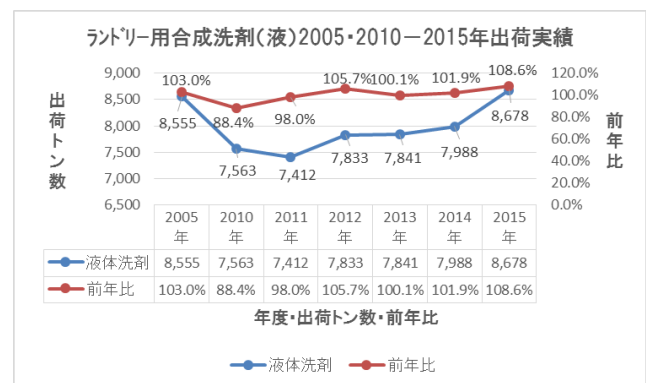
自動投入装置対応として期待される商品であり、粉末洗剤同様に出荷量が増加しました。液体洗剤を使用するコインランドリー施設への出荷増加傾向や介護施設内ランドリー(自動投入機設置洗濯機の使用)での使用増も増加要因と推察しております。

今後もコストメリットや生産安定化に寄与できると判断される要素が増えていくと、テキスタイルリネンサプライ市場での使用実績も増加するものと推察します。

ランドリー用合成洗剤は2010年からの傾向で見ましても、テキスタイルリネンサプライ市場の安定的な維持により安定に推移していると判断しております。ホームクリーニング市場においても、ランドリー用合成洗剤の落ち込みはドライクリーニング用洗剤程ではなく、微減に留まっているものと推察しております。



(表・グラフ-3)



(表・グラフ-4)

## 3. -5)ランドリー用ソフター・漂白剤・合成糊剤

・2013年・2014年(上期・下期)・2015年(上期・下期)出荷実績

項目 / 年度・前年比	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年 (年間)	前年比 (年間)	2015年 (上期)	前年比 (上期)	2015年 (下期)	前年比 (下期)	2015年 (年間)	前年比
ランドリー用ソフター 計	4,872	2,336	2,541	4,877	100.1%	2,430	104.0%	2,553	100.5%	4,984	102.2%
(うち濃縮タイプ)	792	391	401	792	100.0%	382	97.7%	417	104.0%	799	100.9%
ランドリー用粉末漂白剤	1,522	705	795	1,500	98.6%	733	104.0%	816	102.6%	1,549	103.3%
合成糊剤	1,123	499	546	1,045	93.1%	506	101.4%	576	105.5%	1,082	103.5%

(表-6)

ランドリー用ソフター・粉末漂白剤・合成糊剤出荷量の過去10年前と5年間の傾向は下の(グラフ5・6・7)の通りです。

ランドリー用ソフターは前年比107トン増の102.2%ほぼ横ばいの状況です。メインの使用分野であるテキスタイルリネンサプライ市場が堅調に推移したことが、前年維持につながったものと考えております。濃縮タイプについても安定的に推移し、前年維持しました。傾向として濃縮タイプの利便性は受け入れられつつあると考えており、今後も従来タイプから濃縮タイプへ移行していくものと推察いたします。

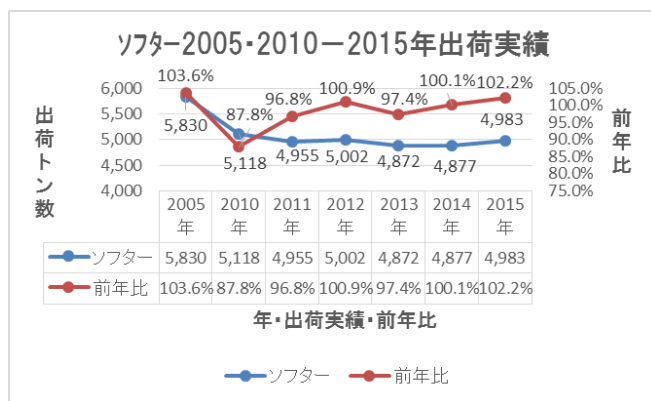
2005年からの長期トレンドでは減少傾向となっておりますが、濃縮タイプへの移行により、実質的には拡大しているものと推定しております。当同業会の技術革新により、濃縮タイプ柔軟剤は、繊維に『柔軟性』『帯電防止性』付与するだけでなく、『抗菌性』『平滑性』『すべり性』を付与する機能剤として、今後も拡大していくものと期待しております。

ランドリー用粉末漂白剤は前年比49トン増の103.3%と3年ぶりの出荷増となりました。近年は減少傾向が継続しており、粉末漂白剤の主ユーザーであるホームクリーニング市場とリンクしているものと推察しております。

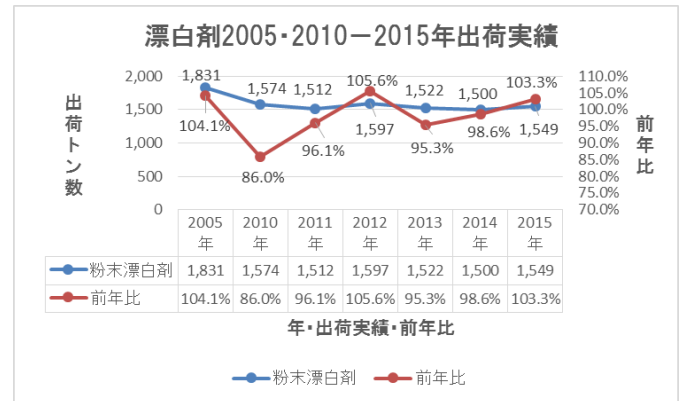
2005年からの傾向を見ましても微減傾向は変わらないものと推察致します。

ホームクリーニングで使用される洗剤がワンショット洗剤への移行とホテル・病院等のリネンサプライでは過酸化水素(液体漂白剤)の使用へ移行したことが、大きく影響しているものと推察しております。

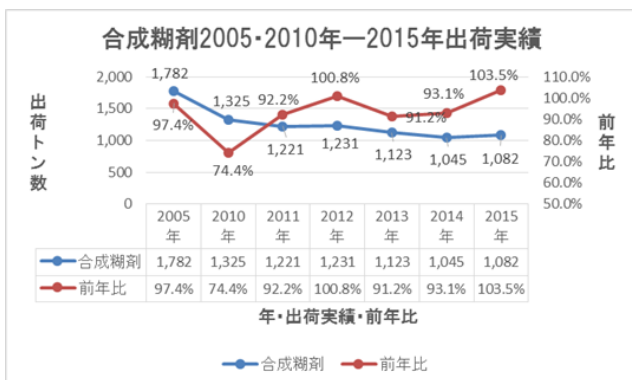
合成糊剤に関しては前年比37トン増の103.5%と漂白剤同様3年ぶりの出荷増となりました。シーツやYシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察します。



(表・グラフ-5)



(表・グラフ-6)



(表・グラフ-7)

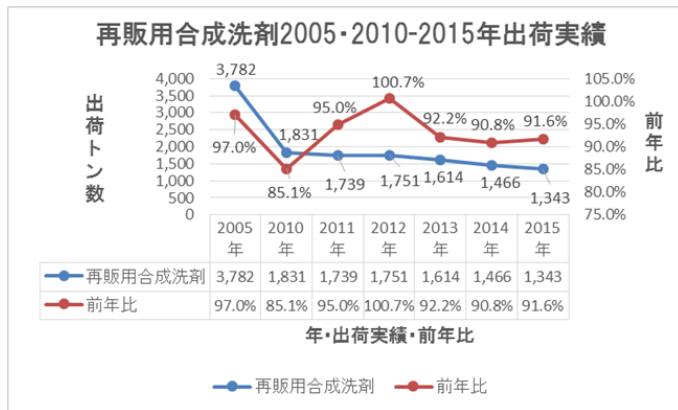
## 3. -6)再販用合成洗剤

・2013年・2014年(上期・下期)・2015年(上期・下期)出荷実績

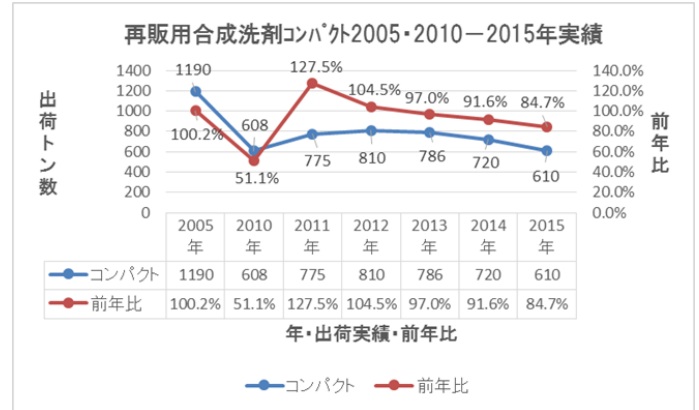
項目 / 年度・前年比	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年 (年間)	前年比 (年間)	2015年 (上期)	前年比 (上期)	2015年 (下期)	前年比 (下期)	2015年 (年間)	前年比
再販用合成洗剤 計	1,614	623	843	1,466	90.8%	559	89.7%	784	93.0%	1,344	91.7%
(うちコンパクト)	786	289	431	720	91.6%	240	83.0%	370	85.8%	610	84.7%

(表-7)

再販用合成洗剤は、前年比 123トン減の 91.7%となりました。下の(グラフ-8・9)の通り、2005年より長期の減少傾向に変わりはないと考えます。1994年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、衰退市場と推察しております。比較的好調に推移しておりました濃縮タイプも前年比 110トン減の 84.7%と減少傾向が継続しております。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、他流通からの液体洗剤参入の影響を受け、このトレンドは継続するものと推察します。



(表・グラフ-8)



(表・グラフ-9)

## 4.まとめ

当同業会の出荷総計では前年比 103.6%という結果でありました。円安の影響により、ホテルリネンでは海外からの集客により好調に推移する一方、消費税増税後の影響によりホームクリーニング市場は冷え込んでいるものと推察され、分野により好調がはっきりした年であったと感じております。テキスタイルリネンサプライ市場での使用が大きいメインのランドリー洗剤が前年比 1245トン増の 104.9%と前年から出荷増となり、全体としても出荷増という結果となりました。

このマーケットセグメントごとで明暗が分かれている結果において当同業会としては、特にドライクリーニング用洗剤の下落傾向に歯止めがかからない状況については深刻に捕らえております。さらに、洗濯に係る衣類の素材変化や消費者動向の変化をきちんと捉え、ホームクリーニング業界として需要拡大策を講じない限り下落トレンドは継続すると思われま。特に春・秋の需要期売上拡大策等による一世帯当りのクリーニング支出代金下落トレンドへの歯止めを掛けることと労働力確保が急務と考えております。

当同業会 13 社は洗浄技術を更に発展させ、消費者動向・業界変化に敏速に対応し業界発展に寄与いたします。

以上